

「社風のよくなる」効果と実践例を紹介

小林講師 人本経営の基礎説く

「ごうつ企業魅力向上TOPセミナー」の第2回目が11月25日、パレットごうつで開催されました。今回のテーマは「社風をよくなる」。小林秀司講師が、社風をよくなることで企業が得られる効果と、先進的な取り組みの実践事例を紹介しました。



小林講師が「霧田気・社風」を圧倒的に重視していることを紹介する

「人間力を必要としない会社はどんどんつぶれていくと思う」

12社から19人が出席し、6人がオブザーバーとして参加したこの日のセミナー。小林講師は前回からの動きとして、ネットヨタ南国（高知県）を視察したことを報告しました。同社は、全国で約300あるトヨタ車販売社の中で、14年連続して顧客満足度トップの座に就いている企業です。同社を「従業員の『満足』ではなく、『幸福』

を追及している」と評した小林講師は、「企業の人間力が重要。これから人間力を必要としない会社はどんどんつぶれていくと思う」と述べました。

小林講師は、民間会社による「2014年度卒学生・就職活動振り返り調査」の結果を引用し、70.8%の学生が企業選びの基準として「霧田気・社風」を重視していることを紹介。翻って「給料」は36.4%、「企業の規模」は20.6%、「企業知名度」は18.1%だっ

たことを示し、「学生の意識が変化してきている。高度成長期にみられた『奇れば大樹』ではない価値観を持った学生が増えてきているのでは」と話しました。

社員を主役にするための 取り組みとは

先進事例の紹介では、不動産仲介の「エイブルネットワーク」全国加盟店800店舗中、顧客満足度1位を達成

した株式会社ファースト・コラボレーション（高知県）、「幸せ制作会社」を社是に掲げ、求人に対する競争率が100倍を超えるラッピング用品販売・企画会社の株式会社ヘッズ（大阪府）、日本航空などの大手の内定を断り就職してくる若者がいる、飲食店運営会社の有限会社ライト・ライズ（千葉県）の3社を紹介。社員を主役にするため社長が現場を支援する「逆ピラミッド

型」の店舗運営や、全員参加の経営勉強会の毎月開催、学生アルバイトのために店を休業しての「卒業式」など、それぞれが独自の手法で人本経営を実践していることが説明されました。

「何のために」という問いかけを大切に

最後に、小林講師は社風をよくするための研修実践法について解説。「気

付いたらまずは行動しないとイケない。最初は形からでもいい、中身はだんだんついてくる」と話し、「従業員の間で温度差は出るが、無理やり従わせるのではなく変わろうとする人を抵抗する人から守ることが大事。『何のために』という問いかけが重要」と呼びかけました。

参加各企業が発表

人本経営実践の計画



今回は講義に先立ち、前回で課題として出されていた人本経営の実践計画について、各社が作成してきた案を発表。「健康経営」「従業員に対する個人面談」「自ら行動できるスタッフ」といったキーワードが出てくる中、「社員一人ひとりの目標がバラバラになっている」「情報共有に問題がある」「世代交代が課題」などと自社の課題に目を向け、解決を図ろうとする姿勢をみせていました。

同日開催！「いわみ仕事再・新発見セミナー」

企業、教育関係者、保護者が熱論

第2回セミナーが行われた11月25日、セミナー終了後の夜に同じ会場のパレットごうつで「いわみ仕事再・新発見セミナー」が開催されました。

この企画は、島根県西部県民センター商工労政事務所の主催で初めて開

かれたもので、市内を中心とした企業、教育関係者、保護者が集まりました。

参加者たちは、子どもたちに地元に残って就職してもらうためにはどうしたらいいのか、地元の良い企業があることを伝えるにはどうしたらいいのか

等について、それぞれの立場から熱論が交わりました。



次回ご案内

- ◇日時：平成28年12月22日（金）
13時30分～16時30分
- ◇会場：パレットごうつ
- ◇内容：実践成功事例
～社員意識調査の結果をふまえて～
- ◇講師：大浦敬子氏
（株式会社おとなの学校
代表取締役）
- ☆オプザーバー（見学）募集！
※参加無料、事前申し込み不要です。